



障がいを持った人が作り出す「ダストレスチョーク」

日本理化学工業株式会社はこんな会社です。

- *1937年 日本理化学工業設立
ダストレスチョークの製造を開始
- *1960年 障がい者雇用を開始
- *1975年 知的障がい者の雇用促進のため、
国が指定するモデル工場第1号に
選ばれる
- *1981年 美唄工場もモデル工場に
- *2005年 企業フィランソロピー大賞社会
共生賞受賞
- *2009年 第18回日本文具大賞機能賞
グランプリ受賞
- *2009年 鳩山由紀夫内閣総理大臣が
日本理化学工業川崎工場を視察

*「カンブリア宮殿」「報道ステーション」「24時間テレビ」等のテレビ番組やラジオ、雑誌、本などさまざまなメディアで取り組みを紹介された。

知的障がい者を多数雇用する会社

2022年6月1日現在

<川崎工場（神奈川県）>

社員56名中 知的障がい者 38名
内訳 重度知的障がい者 20名
重度以外の知的障がい者 18名

<美唄工場（北海道）>

社員33名中 知的障がい者 24名
内訳 重度知的障がい者 5名
重度以外の知的障がい者 19名

常用雇用労働者43.5人以上の民間企業には、法律で2.3%以上の障がい者雇用が義務付けられています。
日本理化学工業では、社員の約70%が知的障がいのある社員です。



「ダストレスチョーク」 ってご存知ですか？

- *白くて鮮明に見えます。
- *ソフトな書き味。
- *粉の飛散が少ない
- *コーティング加工で手を汚しにくい
- *無害 - ホタテ貝殻など安全な材料

ダストレスチョークの素晴らしさ！

- ・日本で初めて無害な炭酸カルシウム製チョークの国産化に成功。
- ・ホタテ貝の貝殻を原料に。
- ・ホタテ貝殻が持つ特殊な結晶構造→白色度を高くし、ソフトでなめらかな書き味向上させることを発見。

チョークのリサイクル活用法！

- ・消した後溜まる粉末→再生チョークに。
- ・粉末や短いチョークを水で溶く→絵の具として利用。淡いタッチの水彩画が〜



日本理化学工業は、2022年5月30日に「もにす認定企業」として認定されました。



北海道のホタテ貝殻を再生活用したチョーク。
鮮明で、書き味もなめらかです。

年間20万トン廃棄されるホタテ貝殻の処理は北海道特有の課題でした。当社ではこのホタテ貝殻を再生活用し、世界で初めて微粉末にしてチョークに配合しました。

- グリーン購入法適合商品
- 平成22年リデュース・リユース・リサイクル推進功労者 農林水産大臣賞受賞



ホタテ貝殻を微粉末にし、細かく砕くと棒状粒子が発生します。これがチョークをより鮮明にし、粉の飛散も少なくなることを発見、製法特許を申請しました。従来のチョークに比べ、書き味のなめらかさも向上しました。

●特許第4565074

大量に捨てられてきた貝殻でも、一生懸命に研究することにより、再生活用が可能になりました。しかも、チョークの書き味がよくなり、品質も向上させることができました。このダストレスチョークを使えばリサイクルについてわかりやすく説明でき、子供たちの環境教育教材として学校で活用されています。



グリーン購入法
適合商品



開発者からの一言

ただリサイクルしただけでは、使い続けていただけません。従来品より品質を向上させることに研究を続けて、高品質のチョークを実現しました。

日本理化学工業(株)
美唄工場
取締役工場長
西川 一仁



北海道で山積みになっているホタテ貝殻



その他の生産商品



ダストレスラール(黒板拭き)



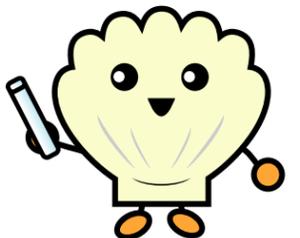
キットバス



ダストレスラインパウダー
などなど



工場内は、障がい者の今ある能力で、その仕事ができるように作業方法を工夫、改善しています。





障がいを持った人が作り出す「ダストレスチョーク」



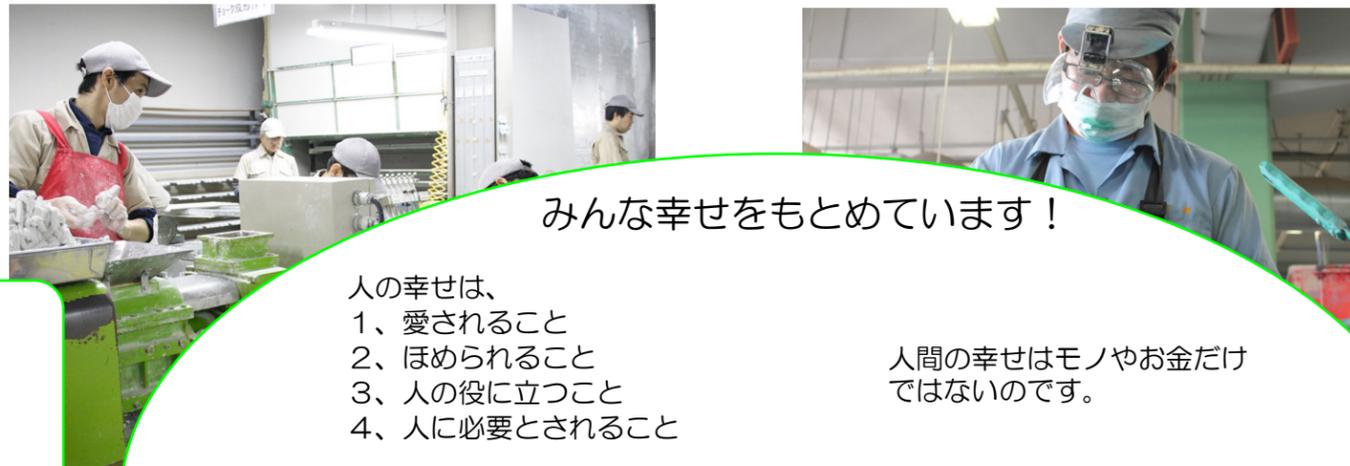
今から50年も前のこと～

1959年（昭和34年）の時の話です。会社の近くにある養護（ようご）学校の先生から「知的障がいを持つ生徒を工場で作ってほしい」と言われました。最初は、不安なあまりにことわりました。しかし、先生はあきらめません。三回目もほうもの時に、「やとわなくてもいいから、働くことを体験させてください」と。先生の願いを会社は聞き入れて、学校から2人の少女が2週間働くことになりました。

でも、会社の人たちはこれまで障がい者といっしょに働いたことがありません。一体何がおこるのか？どのように接したらよいのかだれにもわかりませんでした。

ところが、少女たちはラベルはりの仕事にむちゅうになりいっしょうけんめい働きました。「お昼休みだよ」と声をかけられるまで休み時間も手をとめませんでした。

こんなにがんばる少女たちのすがたに、会社の人たちは心を動かされました。職場体験が終わる前日、「自分たちがめんどうを見るからあの2人を正社員にしてほしい」と。よく年の1960年に2人の少女が正社員になり、その後、一人またひとりとふえていきました。今では、会社で働く人の7割が障がいのある人たちでチョークを作っています。



みんな幸せをもとめています！

人の幸せは、

- 1、愛されること
- 2、ほめられること
- 3、人の役に立つこと
- 4、人に必要とされること

人間の幸せはモノやお金だけではないのです。

「この会社では、読み・書き・計算がたいへんな人がたくさん働いていますが、みんな一人前に働いています。たとえば、材料をようきの色で見分けたり、目もりの数字が読めなくても、天びんばかりを使えば重さをはかることができます。また、時計が読めない人のために、砂時計を使っています。

現在、二つの工場で行っている人の約7割が知的障がい者です。障がいのある人も、働いてお給料がもらえる方が良いでしょう。会社が働ける工夫をしてあげれば、障がいのある人も立派に働けます」



＜知的障がいがある人が、働けるくふうのいろいろ～＞

*砂時計：原料にのりをまぜてねる作業できかきを動かす時間をはかるのに砂時計を使います。作業にひつような時間がわかります。また、アラームを使うことで作業する時間を知らせるくふうもしました。

*色のついたおもり：赤い色のついたようきの材料は、赤くぬったおもりをてんびんにのせてはかります。こうすることで材料の重さが同じになります。

*波じょうのケース：1シート12本、6シートで72本を1つの箱に詰める作業。12本のチョークが入る波じょうのプラスチックケースを作りました。かぞえなくても一目で本数がわかります。

*大きさが一目でわかる道具：チョークの太さは決まっています。そこで、チョークを入れるだけで太さがわかる道具を作りました。



＜知的障がい者は、人の幸せとは働くことなのだ気づかせてくれました。企業はもうけることも大事だが、人に働く喜びを与えてくれることが大きいのです＞
(大山泰弘会長)

＜工場を見学した子どもたちのかんそうより＞

「字が読めない、計算もできないのでふつうの学校にも行けない知的障がい者が、あんなに上手にチョークを作っているのにびっくりしました。ぼくにはとてもまねができません。天の神様はどんな人にも世の中で役に立つ才能を与えてくださっているのですね。ぼくはぼくのできることで世の中の役に立つ人になってがんばります」

「知的障がいのある方が、働けるようにくふうしてあることがすごいなあと思いました。ふだん、私たちが学校で使っているチョークが、人に害を与えないように作られていることが分かったし、障がいのある方が作っていることがとてもいいなあと思いました。なぜかという、目標をもってがんばっていてすばらしいからです。私もみならって、いろいろなことにチャレンジしていきたいです」

「天の神様はどんな人にも世の中で役に立つ才能を与えてくださっているのですね。」

